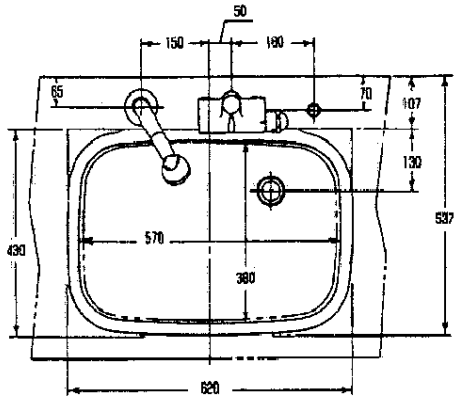
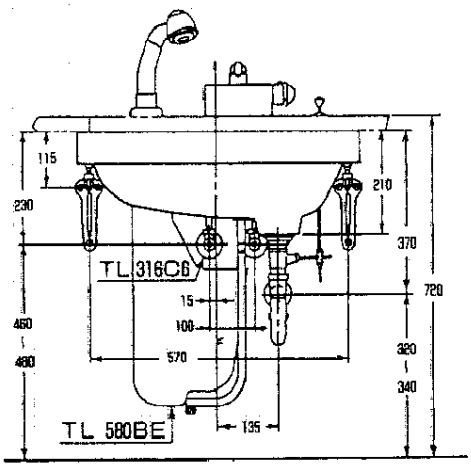
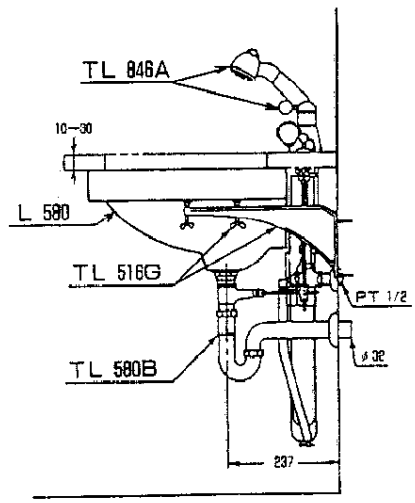
洗面器用洗髪機能付
サーモスタット混合栓施工説明書

製品の機能が十分発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取付けてください。

完　成　図







※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

使 用 条 件

1.使用水圧

(1)ガス瞬間湯沸器と組合わせる場合

給水圧力 { 最低必要水圧……(下表参照)
　　最高水圧…… 0.6 MPa

器具入口部における最低必要水圧 (MPa)

湯沸器タイプと号数			最低必要水圧
従来タイプ		8号	A+0.07
		10号	A+0.1
		12号	A+0.14
比例制御タイプ	TOTOカスタムシリーズ	13号	0.08
		16号	
	TOTOトリコンシリーズ	16号	0.065
		20号	
		32号	

注) TOTOカスタムシリーズで、湯沸器の温度を60°にした場合、表中の数値より0.02 MPa多く必要になります。
表中のAは湯沸器の最低作動水圧を示します。(比例制御タイプにはこの数値が含まれています。)

〈設定条件〉

- 開閉ハンドルは全開
- 湯沸器温度調節は最高温度に設定
- 夏季水温：25℃
- 冬季水温：5℃
- シャワー吐水温度：42℃
- 給湯配管長さ：5m

a) 従来タイプの場合

- 湯沸器が着火する下限の圧力とする。
- 季節は水温の高い夏季とする。

b) 比例制御タイプの場合

- 7ℓ/分の吐水流量を確保するのに必要な圧力とする。
- 季節は水温の低い冬季とする。

(2)貯湯式温水器と組合わせる場合

給水・給湯圧力 { 最低必要圧力…0.06 MPa
　　最高圧力……0.6 MPa

給水圧力は給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。
給水圧力が0.6 MPaを超える場合、市販の減圧弁で0.2 MPa程度に減圧してください。

2.給湯温度は使用する温度より10℃以上高くしてください。
ただし約70℃以上の温水は出ないようにしています。

3.給湯に蒸気を使用しないでください。

4.湯・水を逆配管しないでください。
なお給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

5.取付後の保守点検ができるように必ず止水栓を設けてください。

器 具 の 取 付 け

1.給水管内の清掃

器具を取付ける前に必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。

2.本体の仮固定

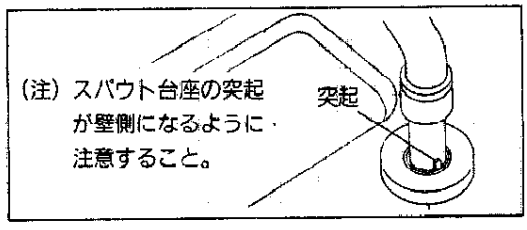
(1)本体水側(右側)の脚の固定ナットを軽く仮締めしてください。

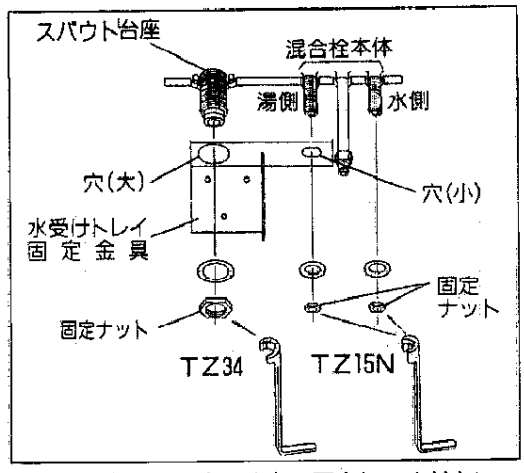
(2)水受けトレイの固定金具の穴(小)を湯側の脚に通し固定ナットで仮固定してください。

(このとき、固定金具のもう一方の穴(大)をカウンターのスパウト取付穴に合わせておきます。)

3.スパウトの取付け

スパウト台座をカウンター穴に通し、水受けトレイ固定金具をはさみ込んだ状態で、別売のナット締付専用工具(TZ34)で確実に固定してください。

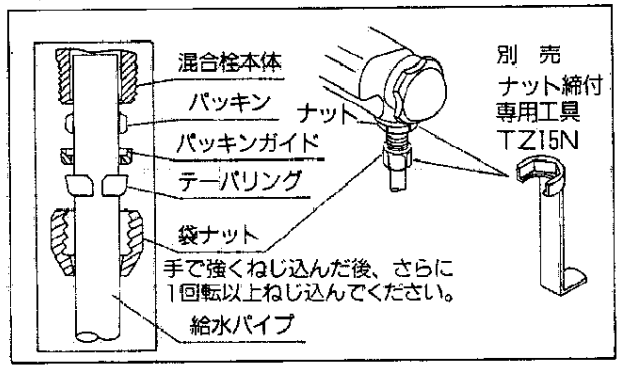




4.本体の固定

2で仮固定した混合栓本体を、別売のナット締付専用工具(TZ15N)で確実に固定してください。

※差込み給水・給湯パイプに袋ナットを入れ、テーパリング、パッキンガイド、パッキンの順番・向きをまちがえないように接続してください。

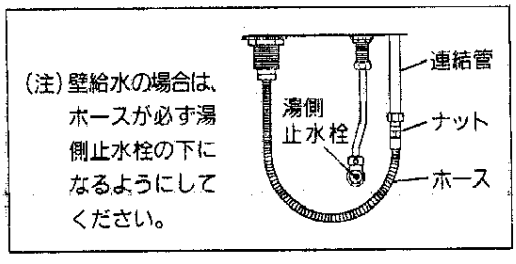


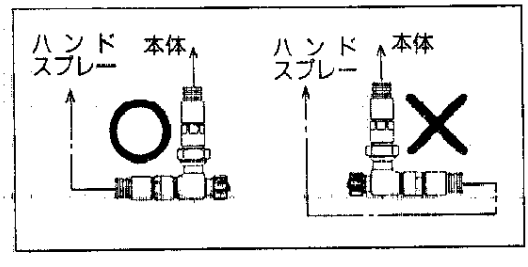
5.ホースの取付け

(※止水栓取付け前に行ってください。)

ホースをスパウトの口から通し、本体中央の連結管にナットを確実に締付けてください。

寒冷地用の場合、ホースの水抜コックの取付け方向に注意すること。





温　度　調　節

工場で温度調節をしていますが取付現場の圧力状態などによって、温度調節ハンドルのダイヤル目盛どおりの吐水温度にならない場合があります。その場合は次の要領で調節してください。
なお、調節する前に次のことを確かめてください。

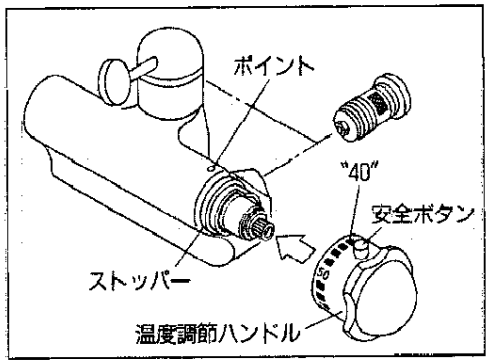
- 止水栓が全開になっていること。
- ストレーナのごみづまりがないこと。
- 十分な温度（使用する温度より10℃以上）のお湯がきていること。

〈調節要領〉

(1)ハンドスプレーより吐水させてダイヤル目盛に関係なく40℃の湯が出る位置まで温度調節ハンドルを回す。（高温側へ回すときは安全ボタンを押してください。）

(2)その位置で温度調節ハンドルが回らないように注意して温度調節ハンドルを抜きとってください。なお、ストッパーが外れたときは分解と点検の項に示す位置に正しくはめてください。

(3)ダイヤル目盛の"40"の文字とポイントを合わせて温度調節ハンドルをはめてください。
このとき、温度調節ハンドルを確実に押し込んでください。



ストレーナの掃除

ストレーナがつまると吐水流量が少なくなったり水又は熱湯が出なくなるなど十分な機能が発揮されなくなります。器具取付後は必ずストレーナを掃除してください。また、お客様にもときどき掃除していただくようにご指導ください。

注）カラー塗装品の場合は表面が傷つきやすいので必ず付属の開閉工具をご使用ください。

お　手　入　れ

めっきされた器具がいつまでも美しさを保つように、お客様に次のお手入れ方法をご指導ください。

- ふだんからこまめに柔らかな布でふき、ときどきミシン油やカーワックスなどをしみこませた布でみがくこと。ただし、樹脂部（ハンドル・ハンドスプレーなど）に付着すると光沢を失うので、付着しないよう十分注意すること。
- クレンザーやみがき粉など粗い粒子を含む洗剤やナイロンたわしなどは使用しないこと。
- 酸性洗剤はめっきを侵しますので使用しないこと。もし、タイルを酸性洗剤で洗った場合は、すぐにタイル及び器具を十分水洗いすること。

寒冷地用の水抜方法

寒冷地用の場合は器具内の水を抜くため、水抜コックを設けております。凍結のおそれのある時期に施工された場合は、水抜栓の操作とあわせて次の要領で水抜きをしておいてください。また、お客様にも水抜方法をご指導ください。

〈水抜手順〉

(1)開閉ハンドルを全開にする。

(2)本体の水抜コック3ヶ所を開く。

(3)温度調節ハンドルを"H"に合わせ、水抜コックから水が出なくなってから、ハンドルを"C"側いっぱいに回す。

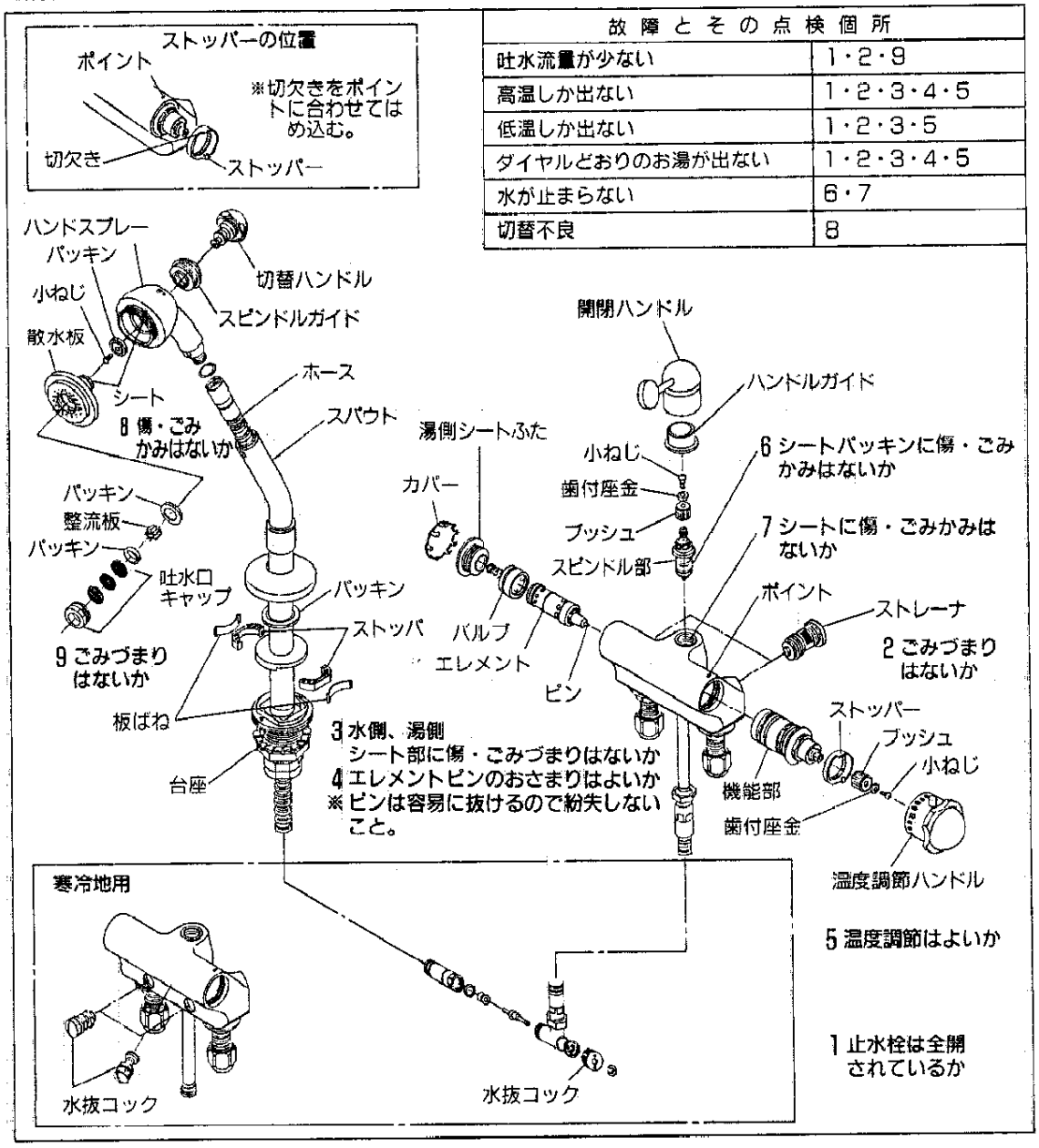
(4)ホース途中の水抜コックを開く。

(5)スパウトを上に引き上げ、ホース内の水を抜き、さらにハンドスプレーを振って中の水を抜く。

分　解　と　点　検

取付後万一故障などで分解するときは、次の要領で行ってください。

故障とその点検個所	
吐水流量が少ない	1・2・9
高温しか出ない	1・2・3・4・5
低温しか出ない	1・2・3・5
ダイヤルどおりのお湯が出ない	1・2・3・4・5
水が止まらない	6・7
切替不良	8



※同梱の取扱説明書は、お客様にお渡しください。
手渡しできない場合は、工事完了後ハンドルなどに吊り下げておいてください。